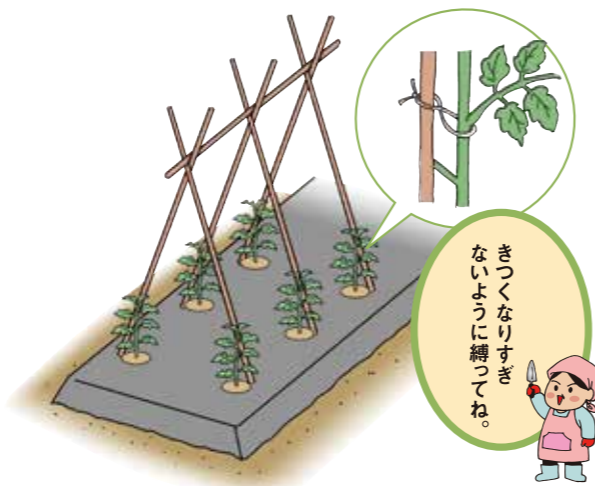




本葉のわき芽から出てくる芽を摘み取ります。ウイルス病伝染の危険を避けるためハサミは使いません。小さいうちに見つけ次第取るようにしないと、わき芽の成長はとて早いのので、つぼみが主枝からわからなくなりますが、放っておくと枝ばかりになり、実が付きにくくなります。

### わき芽かき



きつくなりすぎないように縛ってね。



# ほうさくClub!

祝 200回!

2002年から続いている「ほうさくClub!」。みなさんのおかげで、なんと第200回を迎えることができました!記念すべき200回目は、家庭菜園の王道「トマト」を紹介します♪



第200回 今月は

## 「トマトに挑戦」

★これがトマトのスケジュールだよ。 Calendar

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
				定植		収穫					

- 施肥基準 (1㎡あたり・一例)
  - 苦土石灰 150g
  - 堆肥 3kg
  - BBN552号 60g
  - BB追肥N30号 30g×数回

⚠ 文中の肥料等は一例です。地区によっては違う種類で対応している場合もあります。不明な点は、営農技術員にお問い合わせください。

### 追肥、敷きわら、水やり

最初の実がピンポン玉大になったら1回目の追肥をします。株間に穴をあけ、そこに土を入れて土をかぶせます。2回目以降は木の様子を見ながら行います。茎が根元よりも上部のほうが太くなっている、葉が濃い緑色で反り返っている、ただと肥料が強すぎるので追肥しません。梅雨明け頃からは暑くなるので、マルチの上から敷きわらをするとういでも、マルチは剥ぎ取っても良いですが、雑草が生えやすくなり、土が乾燥しやすくなるのが心配です。

露地栽培の場合、根付いたら水やりはしなくなりますが、最近の夏は猛暑の上雨が不足します。土が乾いていたら涼しい時間に水をやりましょう。

### 摘芯、摘果

大玉トマトは暑さに強くないので5〜6段目の花房で収穫は終わりにします。その上の葉2枚を残して芯を摘み取ります。すべての花に着果させると木が疲れてしまうので、1つの花房には実を4〜5玉つのようにし、花房の先は摘み取るのと大きく丸い実が育ちます。

ミニトマトや中玉トマトは秋になっても実をつけるので摘芯しなくてもよいです。

トマトの原産は南米のアンデス高地といわれています。その土地は強い日差しと荒野で、昼夜の温度差が大きく湿度が低いので、上田地域の環境に似ているようです。ふるさとにより近い環境にするため、雨が直接当たらないように雨よけをしてやると、病気になりにくく上手に栽培ができます。

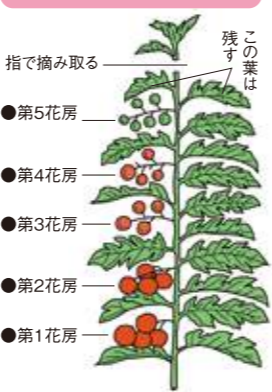
今回は大玉トマトの栽培方法を紹介しますが、中玉トマト、ミニトマトも準じます。



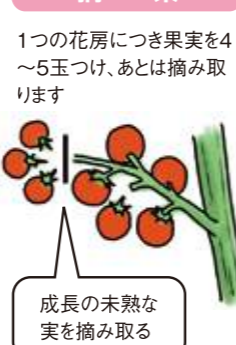
### 畑の準備

定植の2週間前に苦土石灰と堆肥を、1週間前に化成肥料をまいてよく耕しておきます。元肥が多すぎると実が付きにくくなるので注意します。うねは幅120cm、高さは高めに15〜20cmに作りまします。黒マルチを張ると地温が上がって根の張りがよくなります。霜に当たると弱るので早すぎる定植はおすすめしません。条間80cm、株間45cmの2条植えにします。定植前日に植穴にたっぷり水を入れて湿らせておくのと根付きやすくなります。

### 第5花房で摘芯の場合



### 摘果



成長の未熟な実を摘み取る

### 尻腐れ症

実のお尻に黒くて固い部分が出てしまう状態は、カルシウム不足が原因の生理現象です。元肥に苦土石灰やカルシウム肥料を施すことはもちろん重要ですが、水が足りなくて根から吸い上げられない場合にも起こります。「カルクロン」や「トマトの尻腐れ予防スプレー」などの葉面散布剤を使って直接カルシウムを補給するのが最も効果的です。

### 収穫

実が十分に赤くなったなら収穫です。手で軽く上に曲げながら持ち上げると簡単に取れます。

### オススメ資材

小さい種用 種まき器 「タネポン」 1280円(税込)

ハクサイやキャベツ、ブロッコリーなどの指でつまみにくい小さな種をまくときにおすすめです。特にセルトレーの種まきにおすすめで、バネの部分を押すと1粒ずつ種が出てくるので間引く手間も省け、効率もアップします。付属で2粒まき用の部品もあり、本体のネジをゆるめて簡単に交換できます。

○お求め・お問い合わせは、グリーンファーム各店までお気軽にどうぞ。



### 定植

根鉢は崩さずに、ポットの苗の深さで植えます。特に接ぎ木苗の場合、接ぎ木部分が土がかからないようにします。育ちすぎた苗の場合はマルチをせせずに寝かせて植えても良いです。茎から根が出て安定した苗になります。「苗下」や肥料袋などで作る「あんどん」をかけてやると、遅霜や強風から保護できます。支柱は合掌式にすると倒れにくいですが、ひもを8の字にしてきつくなりすぎないように縛って誘引します。苗の小さなうちは仮支柱でもよいでしょう。

